

1 主眼

教科書や図書資料から、消防艇の役目や工夫を読み取ることができる。

2 指導上の留意点

- ①教材文と併せて行う読書では、その時間に学習する船に関する図書資料に限定し、提示する。
- ②児童が教科書にない乗り物について説明の文章を書く際にも、この文型を生かすことができるように、「～ための」「～あります」などの言葉に着目させ、役目と工夫を読み取らせる。
- ③本文を読み取った後でまとめる活動を毎時間行い、乗り物カードの作り方に慣れさせる。
- ④授業の最後に、消防艇について、図書資料の中から教科書にない工夫を見つける活動を取り入れ、目的を意識した読書活動の経験をさせる。
- ⑤ペアで「おたずねごっこ」をしたり、教科書にない工夫を探したりすることで、自分だけでは見つけられなかった工夫に気付かせる。

評価

消防艇の役目と工夫を見つけ、まとめることができたか。
教科書に載っていない工夫を図書資料から見つけ、まとめることができたか。

消防艇の資料を拡大したもの①

消防艇の資料を拡大したもの②

いろいろなふね
しょうぼうていのやくめとくふうを
みつけよう

すこいでしょう!!

しょうぼうてい

くふう

やくめ

(乗り物カードの拡大)

本時の流れ

- ①前時までの学習を想起し、本時のめあてをたしかめる。
- ②学習範囲を音読し、教科書から消防艇の役目と工夫を見つけ、まとめる。
- ・役目：船の火事を消す
- ・工夫：ポンプやホースをつんでいる

発問 消防艇の役目と工夫を見つけよう。

- ・本文から読み取った役目と工夫を、乗り物カードにまとめる。
- ③消防艇についての図書資料から、新しい工夫を見つけ、まとめる。
- ・図書資料から読み取れる工夫
- ・ペアで図書資料を見合い、見つけた工夫に付箋を貼っていく。

発問 教科書にない消防艇の工夫を見つけ、まとめよう。

- ④学習の振り返りをする。
- ・ふねじまん
- 「なりきり船長さん」

1 主眼

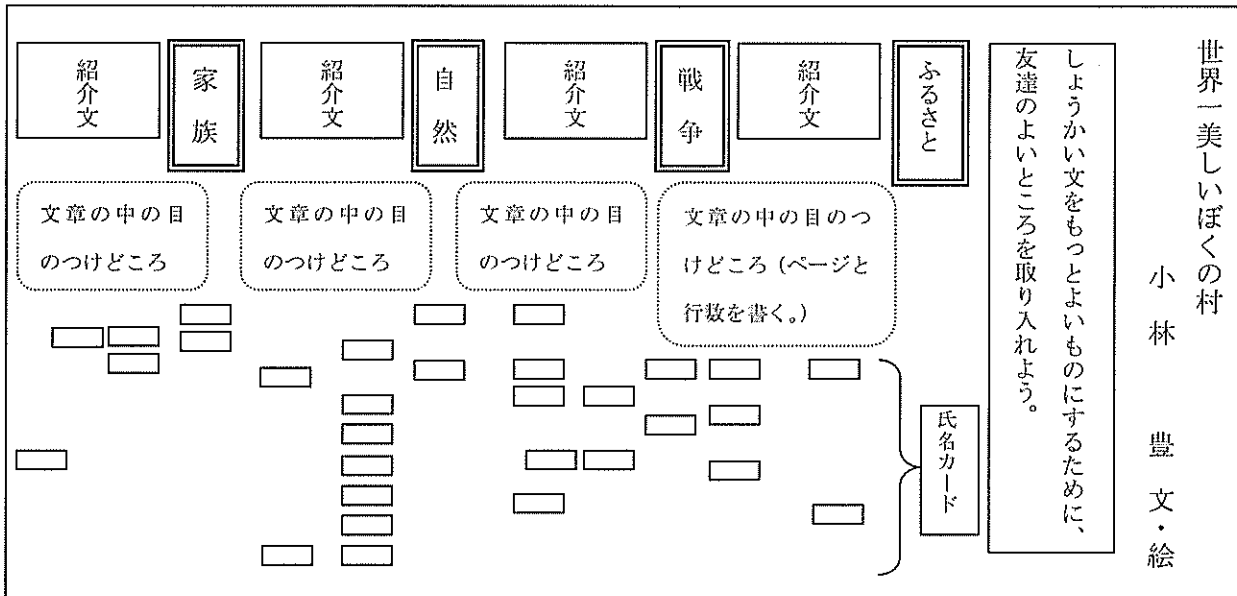
「世界一美しいぼくの村」の紹介文を読み合うことで効果的な紹介の方法について考え、自分の紹介文に取り入れるポイントをつかむことができる。

2 指導上の留意点

- ① 本時のめあてについては掲示物を用意し、児童にしっかりと目的意識をもたせるようにする。
- ② 前時に書いた紹介文を少人数で発表し合う活動を取り入れ、すべての児童に自分の紹介文を伝える機会を設ける。
- ③ 前時に書いた紹介文の中から、ジャンルごとに黒板に例を示し、似た部分があるものところに自分の氏名カードを貼っていくことで、自分の紹介文を振り返り、他者の紹介の仕方から視野を広げさせるようにする。
- ④ 効果的な方法について具体例を示すことで取り入れたい表現を見つけさせる。

評価

友達の目の付けどころや表現方法から取り入れたい部分を見つけ、ワークシートに自分の考えが書けている。



- ⑤ 学習のまとめをする。
◆ 友達の表現から学んだこと(新しい発見)をワークシートに記入させ、数人の児童に発表させる。
- ④ 紹介文を全体の場で紹介し合う。
◆ 前時に書いた紹介文の例をジャンルごとに黒板に貼っていき、似た部分があるものところに氏名シールを貼っていく。
◆ 効果的な方法について具体例を示すことで取り入れたい表現を見つけさせる。
- ③ 紹介文の似ていたところや、違っていったところをもとに感じたことをワークシートに書く
◆ 目の付けどころが同じで、その箇所から感じることが違う意見を発表させるようにする。
- ② 紹介文を読み合う。
◆ 前時に書いた紹介文をグループ内で発表させる。
- ① 本時のめあてを確かめる。

本時の流れ

1 主眼

2つの文章を比較することで推敲の視点を知り、視点にそって文章を推敲することができる。

2 指導上の留意点

①教科書の例文を使い、推敲前と推敲後の文章として比較し、リーフレットに使用したい理由を挙げさせることで、推敲の視点を明確にする。

②視点にそって自分の文章を推敲する場を設定することで、主体的に推敲し、自分の表現の曖昧さに気付くことができるようにする。

③グループで助言する活動を取り入れることで、推敲の視点を広げることができるようにする。修正点について付箋紙を用いて、助言し合うことで、書くことへの意欲を高めたり、自分の文章にいかしたりできるようにする。

④推敲の視点にそってよりよい表現に書き直すことができた文章を紹介することで、推敲のよさが全体に広がるようにする。

⑤本時の学習を振り返ることで、分かりやすい文章を書くためには、推敲が必要であることに気付かせ、自分のリーフレット全体を推敲しようとする意欲につなげる。

評価

文章を視点にそって、推敲することができたか。
友達が書いた文章について表現の仕方に着目して助言し合うことができたか。

スクリーン

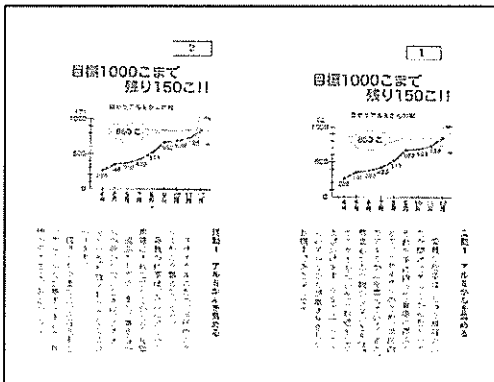
活動内容
→
詳しい活動内容
←
まとめ

推敲のポイント
文章の構成
活動内容

数字
誤字・脱字
文末表現
短い文章
くたりくたり

表現の効果

報告文を推敲しよう



本時の流れ

①本時の学習課題をつかむ。

②同じ題材の二つの文章を比べ、推敲の視点について話し合う。

- ・ 誤字、脱字、文末表現の統一
- ・ 具体的な数字の記述
- ・ 自分の考えを明確に表現する構成

活動内容(概説) ↓ 詳細な活動内容
↓ まとめ

発問 どちらの文章をリーフレットに使用したいですか。その理由も説明してください。

③文章を推敲の視点にそって書き直す。

- ・ 文章の構成・表現の効果

発問 推敲のポイントをもとに自分の文章を推敲しましょう。

④推敲した文章について、グループで助言し合う。

- ・ 活動報告文の基本の構成
- ・ 修正した方がよいところ

⑤全体の場で発表する。

- ・ 分かりやすい表現、構成

⑥本時の振り返りをする。

- ・ 推敲のよさ
- ・ 活動報告文の書き方

未来に生かす自然のエネルギー

牛山 泉

意見を交流しよう

～ 風力発電の課題と解決策 ～

㉑ ㉒ ㉓

本文の揭示

㉔

（児童の発言を書き込む）

太陽光 : 晴天 ○ 雨天・夜 ×
風力 : 晴天 △ 雨天・夜 ○

お互いの弱点を補い合う

説明の技

- ・現状↓課題↓解決策
- ・具体例

本時の流れ

① 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。

② 本文を読んで、風力発電の課題と解決策について筆者の主張を読み取る。

- ・風力発電の課題
- ・風力発電の解決策
- ・筆者の考え
- ・筆者の「説明の技」

発問 風力発電の課題と解決策について、筆者の考えを読み取りましょう。

③ 筆者の主張に対する自分の感想や考えをもち、交流する。

- ・筆者の考えの理由や根拠
- ・筆者の考えのよさ
- ・具体例の示し方

発問 文章を読んで感じたことや考えたことを、友達と伝え合いました。

④ 学習を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。

1 主眼

文章構成や筆者の説明の工夫に着目しながら本文を読み取り、感じたことや考えたことを交流することで、自分の考えを広めたり深めたりすることができる。

2 指導上の留意点

① 「再生可能エネルギー」の具体例や風力発電の現状・取り組みについて想起させることで、本字の学習内容へとつなげる。

② ㉑～㉔段落を読み、「使い切りエネルギー源」から「再生可能エネルギー源」へ切り換える必要性について読み取ることで、筆者の主張に迫れるようにする。

③ 感想や考えを交流して新たに分かったことや、自分の考えの変わったことなどをノートに書かせることで、自分の感想や考えをより明確にさせる。

評価

文章構成や筆者の説明の工夫に着目しながら、本文を読み取っているか。

交流を通して、筆者の主張に対する自分の考えを深めることができたか。

1 主眼

他の班が見つけた表現の根拠を推測し合う活動を通して、大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取ることができる。

2 指導上の留意点

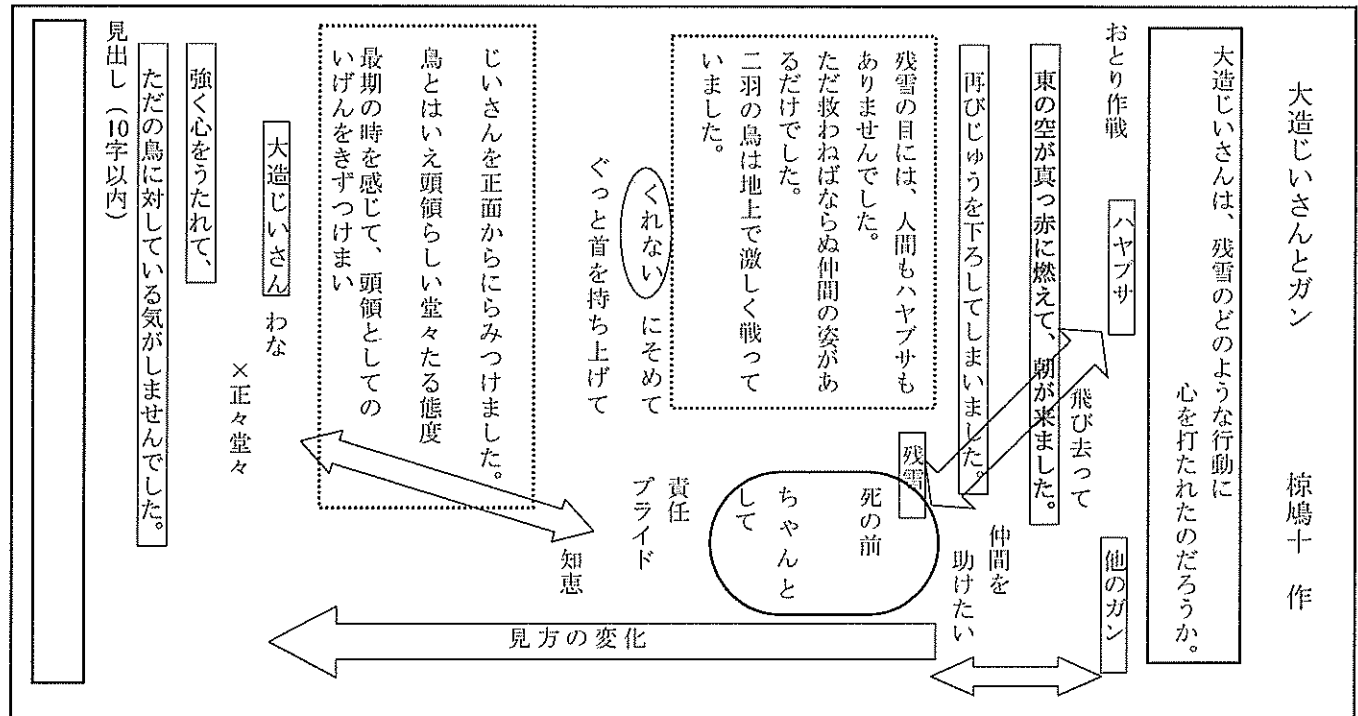
①国語辞典で意味を確認しながら文脈に沿って行動描写や色彩語を具体的にとらえ、残雪に対する大造じいさんの思いや見方の変化を読み取ることができるようにする。

②心に残った言葉を中心にして新聞にしたい見出しを10字以内でまとめ、友達の見出しを見て良いと思ったものを3つ選ぶ相互評価をさせる。

③残雪の行動と大造じいさんやハヤブサの行動の違いや大造じいさんの残雪に対する見方の変化が視覚的に分かるように、矢印を使って板書する。

評価

色彩語や残雪の行動描写から大造じいさんの残雪に対する見方の変化を読み取り、見出しにまとめている。



本時の流れ
①「東の空が」の文から大造じいさんの期待感を確認し、本時の見通しをもつ。

◆前時までの内容と本時の内容の大体を確認し、残雪の行動に着目できるようにする。

②大造じいさんが心を打たれた残雪の行動を班で一つ選ぶ。

◆各班で一つ選び、短冊黒板に書かせる。その際、他の班が選んだ表現は選ばないようにさせる。早く選んだ班は、選んだわけをノートに書かせておく。

③他の班が選んだわけを推測し合い、残雪に対する見方について話し合う。

◆色彩語や行動描写から残雪とハヤブサの行動の違い、残雪と大造じいさんの行動の違いに気づかせ、大造じいさんの変化を読み取らせる。

④新聞に入りたい見出しを書く。

◆10字以内にまとめることで、必要な言葉を吟味できるようにしたい。

- (1) ねらい：音読や書き込み、動作化を通して、いいことを考えたチロの様子や気持ちを想像しながら読むことができる。
 (2) 準備：学習場面の本文、挿絵、ワークシート
 (3) 展開

T：主な発問 ・：学習内容 ○：教師の働き掛け

1 本時の課題を把握し、学習を音読する。
 ○ 前時までの学習の内容をまとめたものを掲示しておき、学習の流れを確認する。

2 チロの様子や気持ちについて、ワークシートに書き込みをする。
 T：チロになりきって思ったことや疑問に思ったこと、友達に聞いてみたいことをワークシートに書きましょう。
 ○ 叙述から想像したことを言葉で表すために、思ったことがある叙述を「赤線」、疑問に思ったり、友達に聞いてみたいと思ったりした叙述に「青線」を引き、自分の思いをワークシートに書き加えさせる。【評価 ア】

3 書き込んだ内容を交流する。
 T：チロの様子や気持ちについて、考えたことを発表しよう。
 ・疑問に思ったことの解決
 ・友達に聞いてみたいことの解決
 ・思ったことの交流
 ○ 全体での交流の前に、自分の考えを伝える練習の機会として、ペアや3人組で交流させる。
 また、ワークシートに記した内容から、自分が特に、伝えたい内容を明確にさせるために、1つの内容を選択させ、印を付けさせる。
 ○ 音読や動作化をさせることにより、チロになりきり、様子や気持ちを想像することができるようにさせる。

4 「おはなしカード」を書くことを通して、本時の振り返りをする。【評価 イ】
 T：今日のお勉強を振り返り、お気に入りの文を選んだり、おすすめ☆について、「おはなしカード」に書きましょう。
 ○ 交流したことを「おはなしカード」に生かすために書き込みをしたワークシートから、お気に入りの叙述を選択させ、カードへの記入を促す。

- 7 評価
- 【評価ア】叙述をもとに、チロの様子や気持ちについて想像し、自分なりの読みをもつことができたか。(ワークシート)
 【評価イ】交流したことをもとに、お気に入りの叙述を選択することができたか。(おはなしカード)

おとうとねずみ チロ もりやま みやこ

いいことをかんがえたチロになりきって
おはなしカード にかこう

そうだ いいことをかんがえた
○とび出して
○どんどん どんどん はして
・おばあちゃんに おかのてっぺんの木から
つたえよう
・はやく いたい
・大きいそぎで いくよ

おばあちゃん あん・・・
○ひとこえ よびました
おばあちゃん あん おばあちゃん おばあちゃん・・・
○くりかえし ひびきながら
ぼくのこえがとんでった おばあちゃんちへとんでった
○うれしがつて とびはねると
○まえよりもこえを はり上げて
・大きなこえでいうよ
・おばあちゃん きいてね
ぼく チロだよ
ぼくにも チョッキ あんでね
○きえてしまいうまで
○じっと耳をすまして
・おばあちゃんちまで とどいてね

大きき口をあけ
いちばん だいじなこと
☆きょうのばめんのおきに入りの文

16	6	7	22	20	21	12	10
2	26	5	18	15	19	9	24
8	11	13	25	17	3	1	14
備考1				備考2			

資料を使って意見文を書こう

資料を組み合わせて、説得力のある意見文を書こう。

わたしは、日本の食料自給率はこのままでよいと考える。理由は、二つあります。
一つ目は、日本の食料自給率は、低くないと考えられているからである。
二つ目は、資料Cに自給率が百分をこえる国は、自分の国で必要とする以上の食べ物をつくつていて、余った食料を輸出しています。とあるように、日本は、食料が足りなくなったら自給率が百分を超える国から輸入すればよいからである。

常体
敬体
引用
「」
根拠
数値

○くん

資料E 不作・戦争

資料3 身近な自給率
小麦12%、大豆8%

もしものときの不安

□□さん

資料3 日本産の食品

資料D 農業・漁業のおとろえ

日本のおいしい食品を食べたい。



△△くん

資料H 最近自給率が下がっていない。
資料4 輸入品は安い。
資料3 自給率が50%を超えるものもある。

自給率を上げる必要はない。

実物投影機による
児童作文の投影

意見文に使う
資料の掲示

1 主眼

自分の主張を読み手に納得させるために適切な資料を根拠として選択、活用して意見文を書き、書いたものについて友達とよさを伝え合い、推敲できる。

2 指導上の留意点

- ①それぞれの立場からの意見例が書いてある「資料活用のヒント」を配布し、資料と意見文との整合性や書きぶりを整える参考にさせる。
- ②推敲の意識を高めるために、作文用紙に自己評価や誤字脱字等のチェックを記入できる欄を設ける。
- ③友達作品を自由に読んで歩き、よさや助言、感想をメモ欄に書いて伝えさせることで、全員が主体的に相互評価をできるようにする。クラス全体での意見交流では、説得力がある作品を推薦し合い、説得力が高まる書き方のイメージを共有させる。

評価

友達に記入してもらったメモ欄や話し合いを参考にして、推敲のためのメモを書いている。

本時の流れ

①例文の問題点について吟味する。

この例文を読んで、おかしいと思うところはどこか。

◆児童が間違いやすい引用の「」の書き忘れ、常体と敬体の混在、根拠の曖昧な理由付けのある例文を示し、意見文を書く際の注意点を確認する。

②意見文を書く。

どのような言葉や数字を読み手に注目させたいか。

◆書くことが進まない児童には、他の児童の作品の書きぶりや内容を伝え、参考にさせる。

③書いた意見文を交流する。

どのような資料の組み合わせが効果的か。

◆意見と理由、根拠の関係がうまくつながつている例を教師が意図的に指名し、価値付けることで、それぞれの修正のヒントにさせる。

④修正したいことをメモする。

友達の助言からどのようなことを修正したいと考えたか。

◆作文用紙に書き直そうとするポイントをメモする欄を設ける。

1 主眼
結論部分の必要性について話し合う活動を通して、筆者の主張を読み取ることができる。

2 指導上の留意点

① 「転機」「滅亡」など②④段落の熟語を調べさせることにより学習場面の内容を読み取りやすくさせる。

② ②④段落がなくても、筆者の伝えたいことは全て書かれているのではないかと投げかけることにより、話題提示と結論の関係に着目させながら、話し合わせる。

③ 時間を短く区切って活動させることにより、全体でのリズムを大切に話し合わせる。（書く2分→グループでの相談2分→発表→相談30秒等）

④ 話し合いを通して、筆者の最も伝えたいこと（主張）は、どんなことかについて目を向けさせる。

評価
本文の言葉を根拠に挙げながら結論部分が必要かどうか自分の考えをノートにまとめている。

テーマ ②④は必要？

必要

- ・ 転機：変わるきっかけ 転換期
- ・ 滅亡：滅びること 絶えて亡くなる
- ・ 切実：強く感じるようす
- ・ 義務：人としてしなければならぬこと

必要

- ・ 今までのまとめ
- ・ 転機を伝えている
- ・ 小学生が六十歳
- ↓ 具体例
- ・ 使命、義務
- ↓ 強い口調
- ・ できること
- （節電、節水、食料）
- ・ 切りかえる必要
- ・ 知恵、くふう
- ・ 結論は必要
- ・ 文末に言い切る

②④

- ・ 組み合わせの良さ
- ・ 節電や節水はしているのによくなっているという話を聞かない
- ・ 節約することが解決になるのか？
- ・ 話題提示
- 問「エネルギー問題の解決」
- ↓ 答え 組み合わせた発電システム
- ③段落は解決策に結論

必要ない

伝えたいこと

わたしたちの使命・義務

「持続可能な社会」の実現は、自然の豊かなめぐみの一部を活用するといふくふうや知恵から始まる。

本時の流れ

【出会う】

① 十月の名文の音読をする。

② 学習場面（②④段落）を音読し、意味調べをする。

④と⑤段落はもうなくてもいいのではないかな？

【深める】【広げる】

③ 「②④段落は、必要かどうか」話し合う

- ・ 自分の立場を決める
- ・ 意見と理由をノートにまとめる
- ・ グループで相談する
- ・ 全体意見交流（少数派→多数派）
- ・ 話し合う（質問、反対意見）

そもそも、筆者の言いたいこと（主張）ってなんだろう？

筆者の組み合わせ法でエネルギー問題を解決することができるのだろうか？

筆者はどう思っているのだろうか？

【まとめる】

④ もう一度自分の考えをノートにまとめる

「私は、必要であると思います。」「今日は、筆者の主張はどんなものか分かりました。」と書いてもらおう。

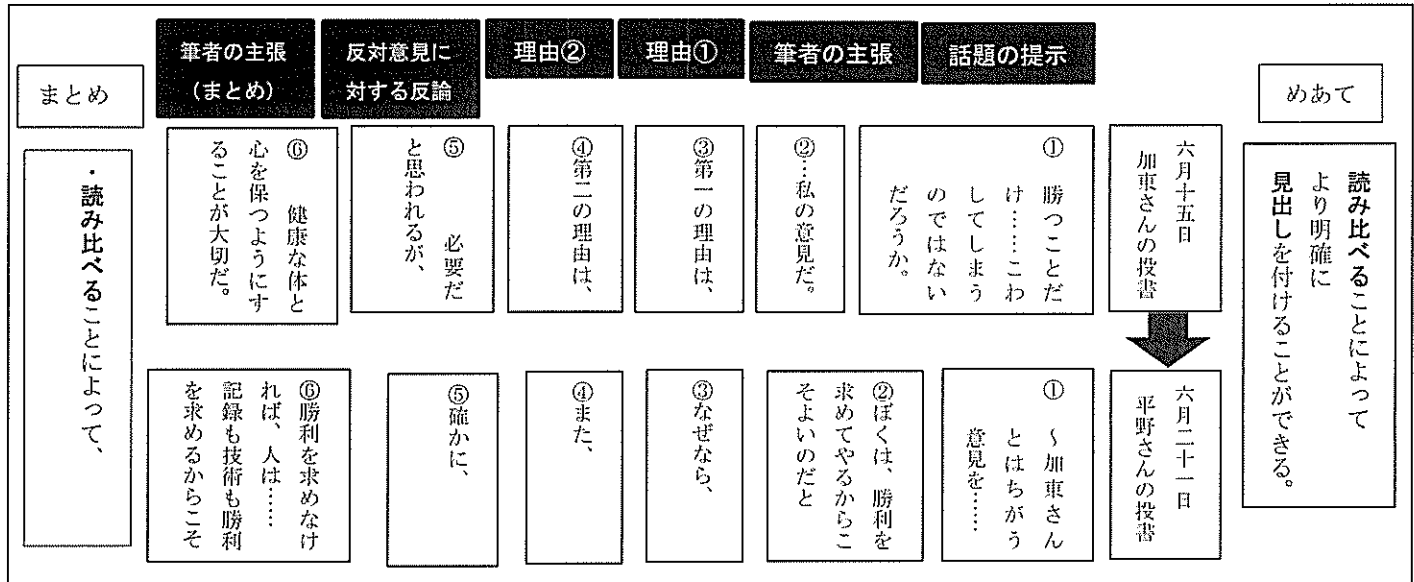
・ 文末に着目した意見、「使命」「義務」等のキーワードに着目した意見を取り上げて再び考えさせる

1 主眼

投書を読み比べることによって、要旨の違いを明確にすることができる。

2 指導上の留意点

- ① 前時の投書の構成を文章内容を確認しながら振り返り、本時への布石を打つ。
- ② 既習内容から「見出し」は筆者の一番伝えたいことを短くまとめたものであることを確認する。
- ③ 二つの投書の構成が同じであることに気づくことができるように段落ごとに色分けをしておき、2段落と6段落に筆者の主張が書かれていることを確認する。また、児童から出た意見で大事な言葉に着目できるように、印を付ける。
- ④ 見出しを付ける際の留意点を確認し、「読み比べたからこそ」より明確に見出しを付けることができることを実感できるように声かけをする。
- ⑤ 「読み比べることによって」の続きを書くことによって本時のまとめとする。



本時の流れ

① 加東さんの投書から、投書(意見文)の構成と本学習での「見出しの定義」を確認する。

② 用紙を色分けしていたのには、意味がありましたね。加東さんの投書は、どんな文章構成になっていましたか。

③ 二つの投書を読み比べる。

④ 加東さんと平野さんの投書を読み比べてみて、「同じところ」と「違うところ」を見つけてみましょう。

⑤ 見出しを付け、友達と伝え合う。

⑥ 「読み比べることによって……」続きを書くことによって、本時のまとめとする。

加東さんと平野さんとは、「筆者の主張」が大きく違うことが分かりました。だとすると、「見出し」も大きく違うものになってきそうですね。昨日付けた加東さんの「見出し」と比べながら、平野さんの見出しを付けてみてください。